



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第34回調査>

2012年3月26日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2012年3月13日(火) 13:00～2012年3月20日(火) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1550件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

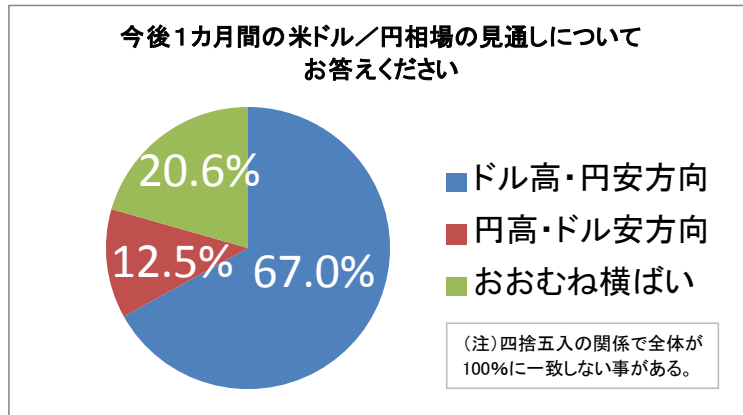
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第34回調査結果略報：2カ月連続で過去最高のドル強気予想に】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

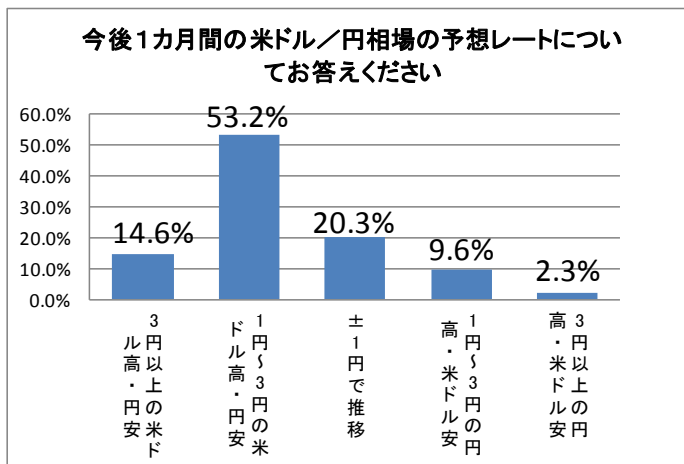
「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が67.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が12.5%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+54.5%ポイントとなり、前回調査からプラス幅がさらに拡大して、2カ月連続で過去最大のプラスDIを記録した。調査期間中のドル円相場は、景気回復期待を背景に米長期金利が上昇する中、11カ月ぶりの高値となる84.17円まで上昇するなど堅調に推移した。米景気回復期待に加え、日銀が金融緩和姿勢を強化した事や、欧州の債務問題に対する懸念が一服し、投資家のリスク回避姿勢が緩んだ事が一段のドル高・円安予想につながったと思われる。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が53.2%と最も多く「±1円で推移」が20.3%、次いで「3円以上の米ドル高・円安」が14.6%、「1円～3円の円高・米ドル安」が9.6%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.3%の順になった。ヒストグラムの形状はドル高・円安側に大きく傾いており、問1の結果と整合的である。ただし、半数以上の回答が「1円～3円の米ドル高・円安」に集中しているように、FX投資家の多くは、2月から3月にかけて見られたような大幅な米ドル高・円安を見込んでいる訳ではないようだ。



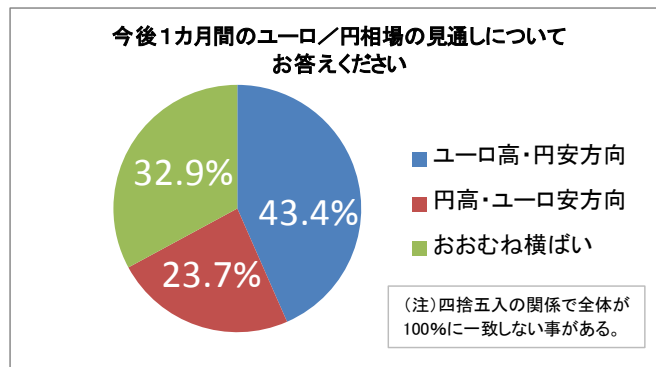
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が43.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が23.7%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は19.7%ポイントとなり、昨年4月以来、11か月ぶりのプラスDIとなった。なお、DIのプラス幅は昨年4月を上回り、2009年10月以来の高水準である。調査期間中のユーロ円相場は、107円台から110円台に上昇している。ギリシャ向け第2次支援が正式に決まり、同国の「無秩序なデフォルト」懸念が後退した事に加え、円の先安感が台頭した事で、FX投資家の予想は「ユーロ高・円安」方向へ急速に転換したようだ。

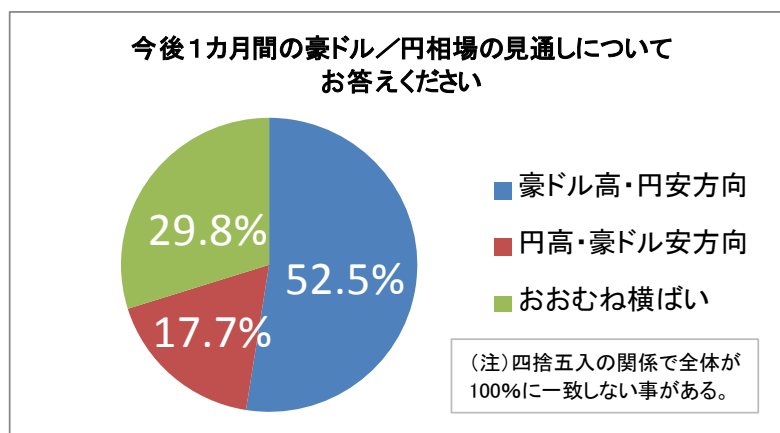
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が52.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が17.7%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+34.8%ポイントとなり、前回調査の+41.3%ポイントからプラス幅は縮小したものの比較的高水準のプラスを維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、一時88.59円まで上昇して10か月ぶり高値を更新するなど堅調に推移している。欧州債務懸念の後退や米景気の回復期待などを背景に主要国の株価や原油などの国際商品価格が堅調に推移している事が、FX投資家の豪ドル強気・円弱気予想を高止まりさせたと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

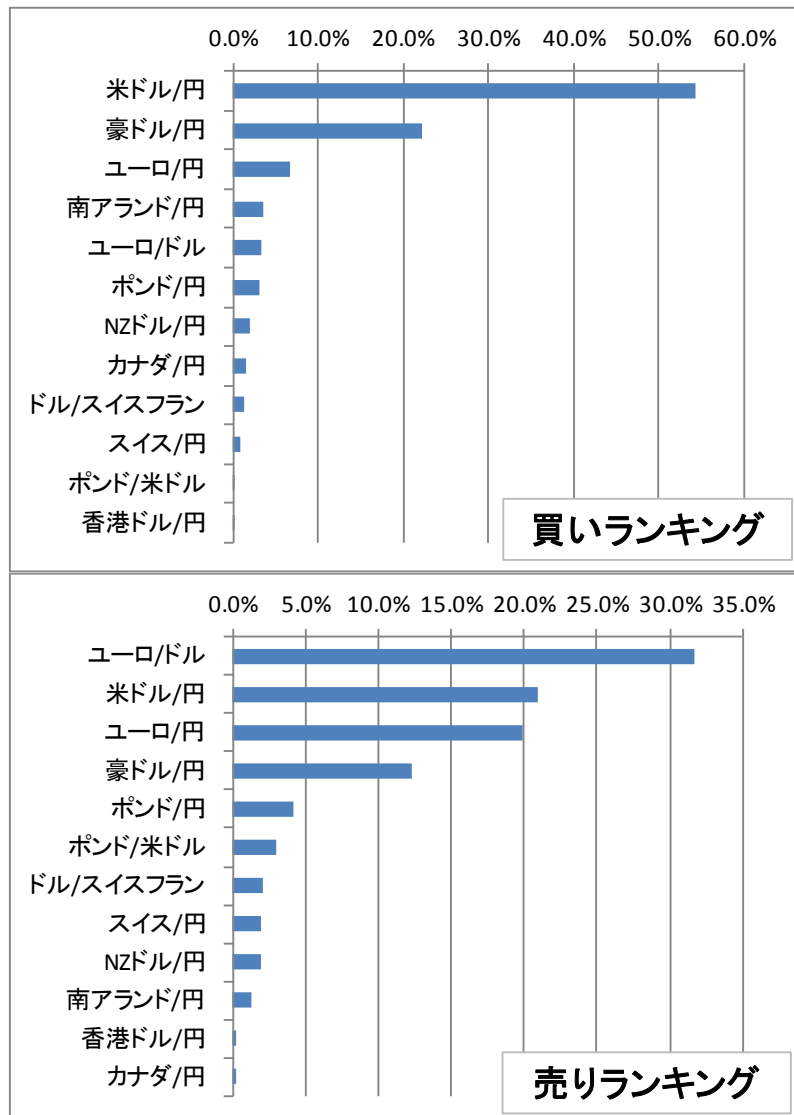


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

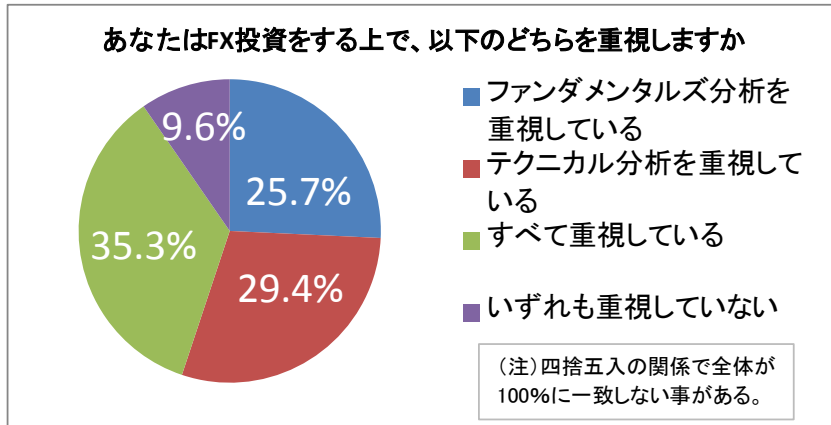
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(54.3%)、2位豪ドル円(22.3%)、以下3位ユーロ円(6.8%)、4位南アランド円(3.7%)、5位はユーロドル(3.3%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロドル(31.7%)、2位ドル円(20.9%)、3位ユーロ円(19.9%)、4位豪ドル円(12.3%)、5位ポンド円(4.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、ドル円が半数以上の回答割合を集めて2位の豪ドル円を大きく引き離れた。回答割合が50%を超えたのは調査開始以来、全通貨ペアを通じて初となっており、FX投資家のドル円に対する上昇期待の高さが伺える。「売り」で注目の通貨ペアでは、ユーロ円を大きく上回る回答割合を集めてユーロ/ドルが1位となった。これは過去の調査ではあまり見られなかった傾向である。ドル円が「買い」で圧倒的な注目を集めた事と考え合わせると、FX投資家はユーロ安や円安よりもドル高予想を強めていると言えそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

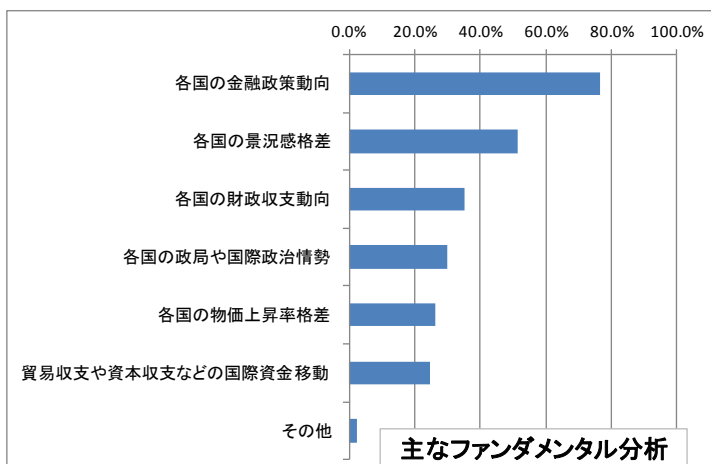
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が25.7%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が29.4%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.3%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.6%であった。調査開始以来3年近くになるが、こうした回答割合に目立った変化は見られない。FX投資家の分析スタイルは、相場動向には左右されにくく、ほぼこの割合で固定化されていると見てよさそうだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?**

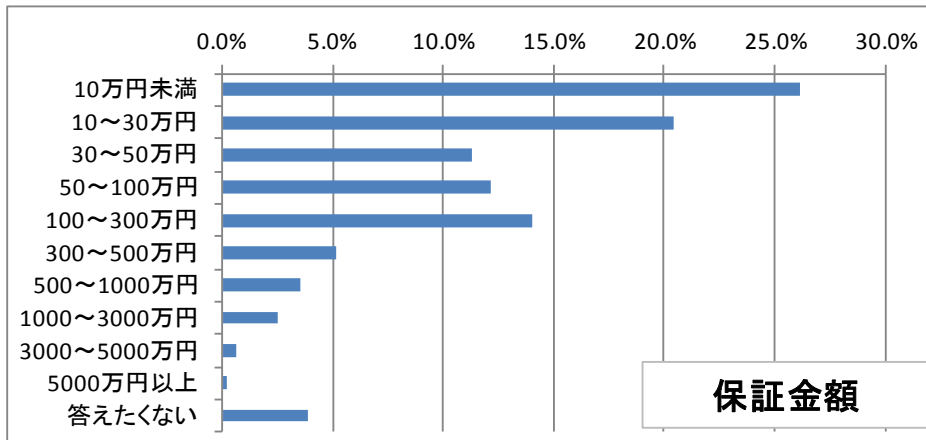
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(76.4%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(51.5%)」、「各国の財政収支動向(35.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(30.1%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(24.5%)」の順に続いた。「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めた。「各国の金融政策動向」や「各国の景況感格差」に注目する傾向に変化はないが、足元では、米国の追加緩和と観測の後退と日本の追加緩和と姿勢の強化という「金融政策格差」がドル円の上昇につながっただけに、今回調査では特にその傾向が顕著であったと言えるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

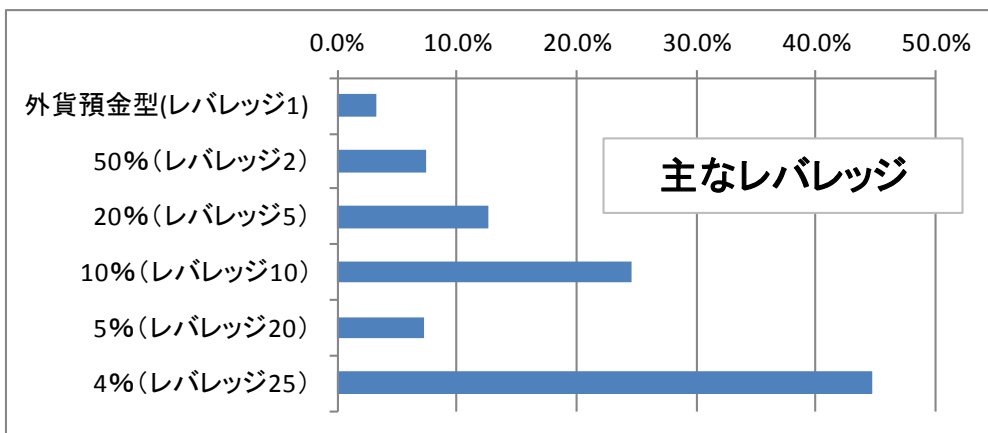
**問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が26.1%と最も多く、以下「10～30万円(20.5%)」、「100～300万円(14.0%)」、「50～100万円(12.2%)」と続き、前回調査と比べ、順位、回答割合とも概ね同じ結果となった。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が70%を超えた一方で、1000万円以上の保証金で取引を行うと答えた合算割合は3.3%にとどまった。小口投資家の多さは、小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表しており、改めてFX投資家の裾野の広さを感じさせる結果となった。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？**

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が44.8%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.6%、「20%(レバレッジ5)」が12.6%と続き、ここまでで80%を超える。以下、「50%(レバレッジ2)」が7.4%、「5%(レバレッジ20)」が7.3%と続いた。昨年8月のレバレッジ規制以降、「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占め、「10%(レバレッジ10)」がそれに続くという傾向が続いている。今回調査におけるFX投資家のレバレッジの加重平均値は約15.9倍(前回16.5倍)となっており、問8の結果から保証金を増額した様子も見られない。FX投資家は外貨強気・円弱気予想を強めたものの、FX投資を増やすまでには至らなかったようだ。

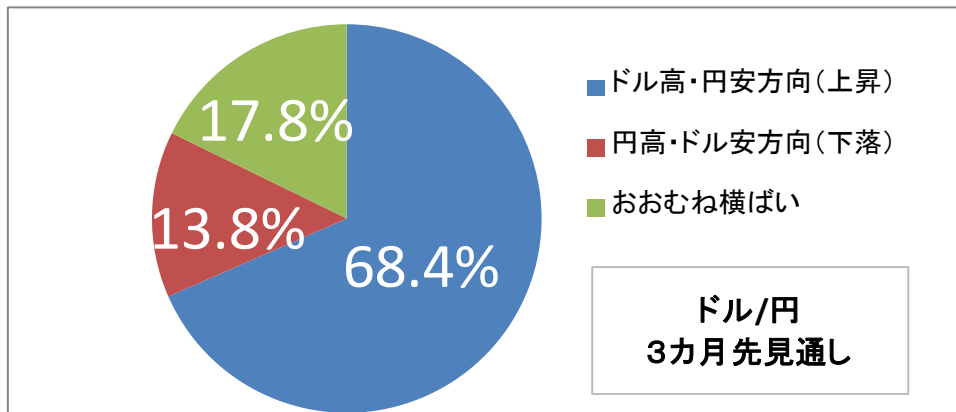


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。



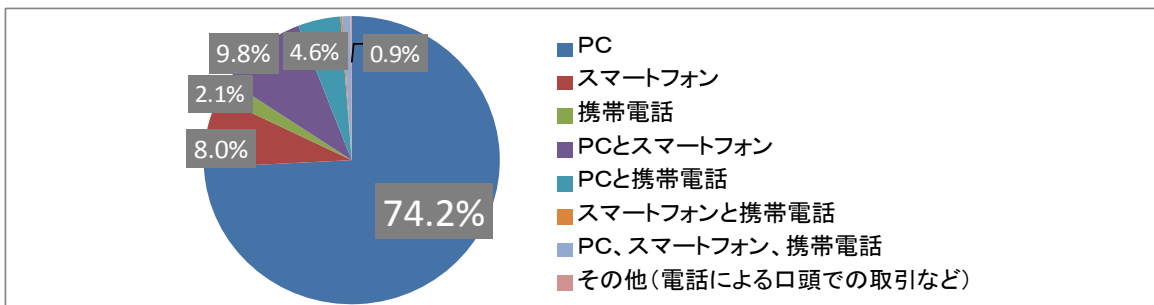
**問10:ここ3カ月のドル円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)  
また、その理由もお聞かせください**

今月の特別質問項目として、ここ3カ月のドル円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)とたずねたところ、「ドル高・円安」と答えた割合が68.4%と多数を占め、「円高・ドル安」と答えた割合は13.8%にとどまった。問1の回答割合とほぼ同じであり、FX投資家が中期的にもドル強気・円弱気予想に傾いている事が示された。「ドル高・円安」予想の理由として挙げられた中で目に付いたものは「米国景気の回復」、「日米金利差拡大」、「チャートの形状が円安トレンドの発生を示唆」、「これまでの下げ過ぎの修正が続く」などがある。「円高・ドル安」を予想した向きからは、「米国景気失速」、「米金融緩和継続」、「大統領選に向けてドル安政策が取られる」、「欧州で不安が再燃しリスク回避の円買いが強まる」などが挙げられた。



**問11:FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)**

今月のもう一つの特別質問項目として、FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)と尋ねたところ、「PCで取引」が74.2%と圧倒的多数を占め、「PCとスマホの併用」が9.8%、「スマホで取引」が8.0%、「PCと携帯電話の併用」が4.6%と続いた。1年前の第22回調査で同じ質問をしたところ、「PCで取引」が77.6%、「PCと携帯電話の併用」が8.8%、「PCとスマホの併用」が5.5%、「スマホで取引」は3.1%であった。スマホの普及率は急拡大しているようだが、FXの取引ツールとしては、急拡大とはいかなかったようだ。FX市場が最も活発化する夜間の時間帯は自宅にいる投資家が多く、スマホの手軽さよりも、接続速度や画面の大きさなどの使い勝手を重視してPCで取引する向きが多いものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第34回目となりました。調査開始後2年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2010年	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6	
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8	
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2	
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2	
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6	
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1	
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3	
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1	
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0	
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6	
	2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
		2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
3月		38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7	
4月		48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0	
5月		44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7	
6月		33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6	
7月		29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8	
8月		18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0	
9月		23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7	
10月		26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0	
11月		14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6	
12月		30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2	
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8	
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3	
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8	

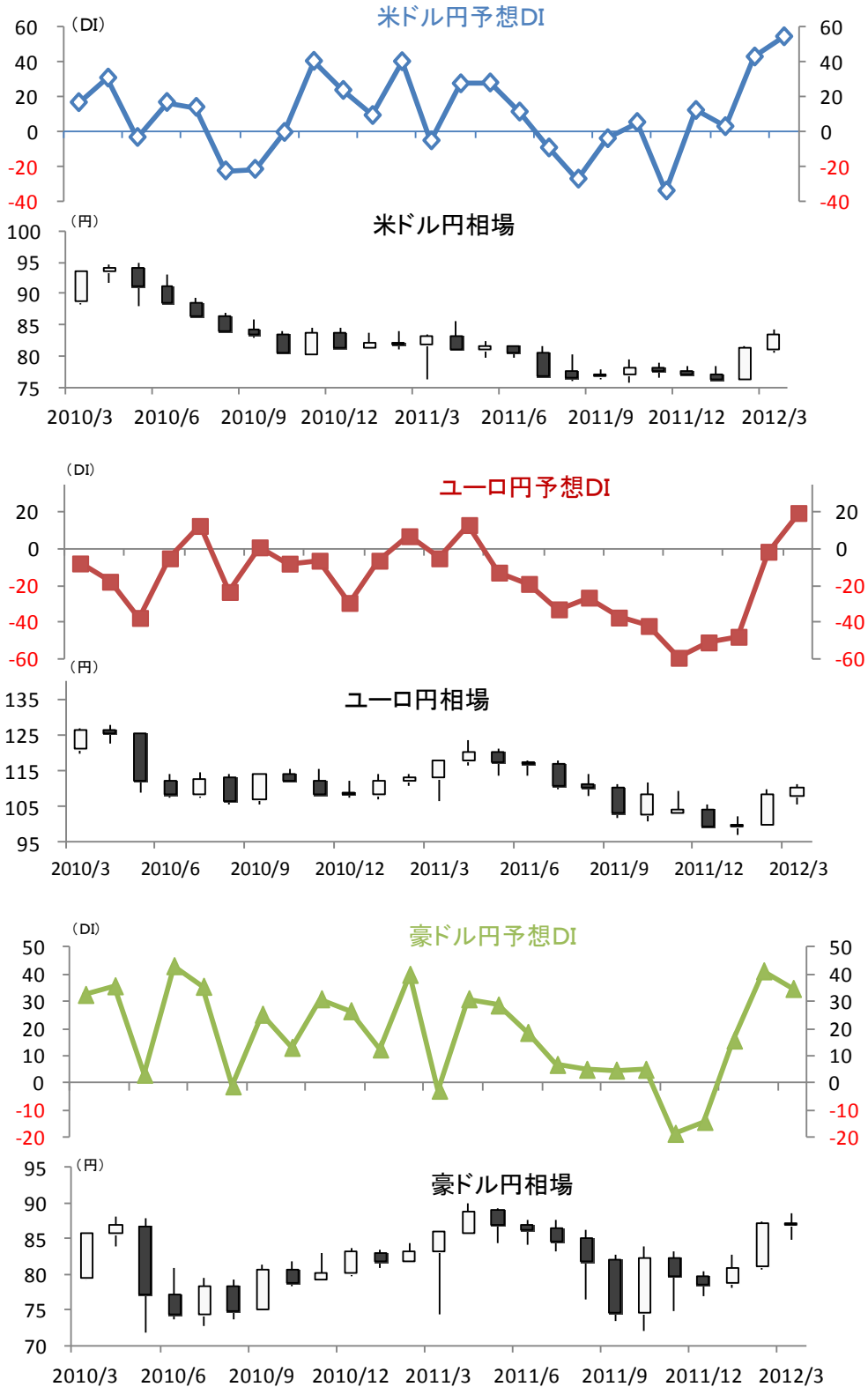
(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com